



外房御宿沖の寒イサキは ほぼハズしなしの高活性

今回の取材指令はイサキ。イサキ釣りは減多に行くことがない私だが、それでもこの時期の寒イサキといえは真っ先に頭に浮かんでくるのは外房御宿岩和田港の義丸だ。気になる釣況だが、11月にスタートしてからは出船さえ

できればトップは規定数の50尾をクリアする高位安定な釣況が続いている。そのためか釣行した12月中旬は平日にもかかわらず私を含め12名もの釣り人が集まる盛況ぶり。私が最後に外房のイサキ釣



▲御宿沖の寒イサキは絶好調。ダブル、トリプルも思いのまま
▼釣り場は御宿沖の水深15~30メートル

りに出かけたときは、まだ空バリにイカタンを付けて釣っていた時代。もう30年以上も昔のことだ。今や外房のイサキ釣りはエサを付けずカラーバリののみで釣ることが主流のようだが、その辺を船長に聞いてみたところ、



「エサは付けなくても十分釣れますよ。なので付けエサ(イカタン)は配りませんが、一応船には用意してありますので付けたい人は声をかけてください」と話す。もちろん持参していただくのも結構とのことだ。
怒涛の入れ食い
準備が整い6時少し前に出船。港を出てそのままゆっくと御宿方向へ進路を取ることにわずか15分。
「ハイ、始めますから準備してください」と威勢のいいアナウンス。
上窓を3分の1程度、下窓は水が抜ける程度(1~2ミリ)に開けたコマセカゴ(サニービシFL60号)へアミコマセを7~8分目ほど入れ、付けエサなしのカラーバリのみの仕掛けで開始のアナウンスを待つ。
そして船を風に立てたところで、
「はいどうぞ! 22メートル」
とのスタートアナウンス。
ほどなくして左舷ミヨシ1番、2番の方にアタリがあったようで巻き上げを開始している。
これを皮切りに船中全員にアタリ到来。22~25センチサイズのイサキがバタバタと釣れ上がる。私はというと仕掛けが風にあおられ開始早々手前マツリ。減多に扱うこ

とがない15号ハリスの細さに苦戦。ようやく仕掛けを投入できたときにはお隣さんはすでに5~6尾のイサキをオケに泳がせていた。
その間にコマセも効いてきたのか、指示ダナも上ずり20メートルに。
道糸のマークを見ながら指示ダナプラス仕掛け長分の23メートルまで下ろし、竿先を45度くらい海面に向けた構えから水平ラインまでキュッとシャクリ、2~3秒ほどポーズを取ってリールを一巻きしながら竿先を海面に向け戻し、

知得! マグネット板の有効性

▼写真は100円ショップで販売されているネオジウム磁石を接着剤でゴムシートに貼り付けた自作アイテム

当日は風がやや強く、仕掛けが風にあおられて手前マツリが頻発し、かなりのロスタイムを生じさせてしまった。季節風に見舞われることが多くなるこれからの時期、風による仕掛けの手前マツリを軽減させるアイテムとしてマグネット板を用意したい。



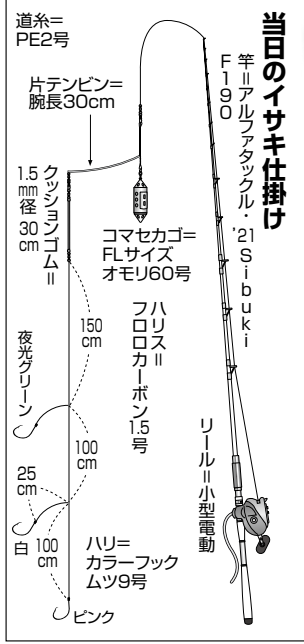
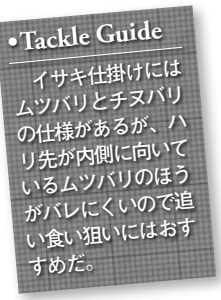
再びキュッと一シャクリ。この繰り返しで指示ダナまで上げていきアタリを待つとコツコツ、キュキューンとシャープなアタリに竿先が引き込まれる。
イサキ釣りの面白さはこのシャープなアタリと追い食いさせての多点掛けにある。掛かったイサキは群れの中に戻ろうとするので、魚の引きなりに竿先を少しずつ下げる。すると2度目の強いアタリが到来し、すぐにまた強めのアタリに竿先がたたかれる。ゆっくと竿を水平に立て直したところで巻き上げ開始。なかなかの手応えに思わず口

元が緩む。ビシが上がり仕掛けをつかむとその先にはブラウンの魚影が3つ。1投目から3本バりにパーフェクト! しかも1尾は30センチ級の良型だ。魚を外して打ち返すとすぐまたアタリ。これもトリプルヒットだ。「上げてください。少し走ります」
魚の食いが衰えているわけではないが、2~3回流し変えると場所移動を繰り返す。各ポイントの様子見やコマセを適度にまいて魚を慣れさせておくといった目的もあるが、根を絶やさなためというの一番の理由だろう。

再びキュッと一シャクリ。この繰り返しで指示ダナまで上げていきアタリを待つとコツコツ、キュキューンとシャープなアタリに竿先が引き込まれる。
イサキ釣りの面白さはこのシャープなアタリと追い食いさせての多点掛けにある。掛かったイサキは群れの中に戻ろうとするので、魚の引きなりに竿先を少しずつ下げる。すると2度目の強いアタリが到来し、すぐにまた強めのアタリに竿先がたたかれる。ゆっくと竿を水平に立て直したところで巻き上げ開始。なかなかの手応えに思わず口

•Tackle Guide

イサキ仕掛けにはムツバリとチヌバリの仕様があるが、ハリ先が内側に向いているムツバリのほうがバレにくいので追い食い狙いにはおすすだ。



ゲストも多彩で楽しめる

少しずつ御宿寄りにポイント移動しつつ、水深15メートル、タナ10メートルといった浅い場所も流していく。

▼太ったイサキは脂乗り乗り



ポイントにより多少の当たり外れもあるが、食い気のある反応に当たればそれこそダブル、トリプルの連発。
朝から食い気のある場所ですべていればあつという間に全員がバツグリミットに達し、早揚がり必至だろう。
それもいいことだが、やはりメリハリがある一日を過ごしたほうが楽しいと思はる。一応エサを付けて釣ってみるが、エサ付けに手間取り返って効率が悪くなるばかり。持参したイカタン、バイオワーム、オキアミはほぼ使わずに終わった。
「おおっ、いいのが上がったおう!」
カメラを持って右舷に駆け



▲数釣り派にイチ推し!

つけると、2.5キロ級のシマアジがタモに収まっていた。
釣り上げたのは胴の間の仲佐さん。ハリス2号でよく上がったものだ。
その後も重おもしろい引きでメジナやウマツツが登場したり、青物かマハタの仕業か、巻き上げ途中で掛かったイサキをウバ食いされ仕掛けを切られるシーンもしばしば。

大型は出なかったが、20センチ未満の小型をリリースしながら20~30センチの食べごろサイズのイサキをほぼ全員が規定数50尾に達したとこ

●船宿information

外房御宿岩和田港
義丸
☎0470-68-2722
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=イサキ乗合一人1万1000円(コマセ、水付き)
▶備考=予約乗合、集合時間は予約時に電話確認。クロムツ&オニカサゴ、寒サバ&ヤリイカへも



木原義一船長

ろで11時の沖揚がりを迎えた。
「急激な水温の低下でもない限りイサキは一番の安定株だよ」とは木原義一船長。外れ知らずの外房寒イサキは、初釣りにも絶対におススメです。

●いいな よしのり/この時期のイサキを初めて食べたけど、初夏のものとなんら遜色ない脂の乗り具合。刺身、塩焼き、フライ、どれも絶品でした。